

粒子の下降運動とオゾンホール

373. *旭 満・牧野行雄・忠鉢 繁・佐々木 徹・堤之智(気研・物理)：昭和基地におけるオゾン全量と高層観測資料との関係

測器・観測手法 II

座長 笹野 泰弘

374. *内野 修・田端 功・甲斐憲次(気研・衛星観測)：マルチカラーライダーによる気温計測技術の開発(I) シミュレーション
375. *内野 修・田端 功・甲斐憲次(気研・衛星観測)：MRI マークII可搬型ライダーの開発
376. *平山 力(航空自衛隊・熊谷), 阿部成雄・引地功(防大・地学)：減衰を考慮して $Y(r)$ 補正値を求める方法

377. *板部敏和・石津美津雄・有賀 規・五十嵐 隆(電波研), 浅井和弘(東北工大)：航空機搭載ライダーによる都市部(東京)での大気境界層エアロゾル分布測定
378. 柴田 隆・一森誠也・前田三男(九大・工)：エキシマレーザーオゾンライダーの開発
379. 高山陽三(気研・衛星観測)：3.7 μm 天空放射観測
380. *高山陽三・高島 勉・増田一彦・鯉沼正一(気研), 佐伯理郎(気象庁), 小泉深吉・佐藤英男・前田惟裕・新井康平・若林裕之・田崎一行(NASDA)：海洋観測衛星搭載可視熱赤外放射計による観測

「第2回梅雨研究会」のお知らせ

日 時：1988年5月21日(土)(気象学会最終日の翌日)
9時30分～12時30分

場 所：東京大学理学部地球物理学教室大講義室(3階)
テーマ：梅雨前線上の中間規模(meso- α スケール)降水系と小低気圧の特徴と形成維持機構

プログラム(タイトルは仮題)

1. 東 善広(名古屋大学水圏科学研究所)：「日本付近に現われるクラウド・クラスターの特徴——特に梅雨前線を中心として——」
2. 多田英夫(東京大学海洋研究所)：「1987年7月に

みられた meso- α 降水系の事例解析」

3. 平沢正信(気象研究所予報研究部)：「梅雨前線帯上の中間規模擾乱と降水系の数値実験」
4. 二宮洸三・栗原和夫・瀬上哲秀(気象庁数値予報課)：「梅雨前線上の中間規模降水系の予報実験」
5. 総合討論

世話人：加藤内蔵進(名古屋大学水圏科学研究所)

〒464-01 名古屋市千種区不老町

TEL. 052-781-5111 内線 5742